

ポジティブ子育て 65号

～どんな言葉をかけていますか～



『夏野菜の看板作り』いずみ保育園



『お楽しみ広場 アイドルステージ』せきいんこども園



『蒔絵教室』河和田小学校



『あいさつ運動～熱く、濃く、さわやかに～』中央中学校

家族で

『ばんけっさんの竜と子どもたち』 千葉亮/著 福井新聞社

小学校高学年～

『ふしぎな500のぼうし』 ドクター・スース/さく・え わたなべしげお/やく 偕成社

『クマよ』 星野道夫/文・写真 福音館書店

小学校低学年～

『ほね』 堀内誠一/さく 福音館書店

『マイク・マリガンとスチーム・ショベル』 パージニア・リー・パートン/ぶんとう えいしいももこ/やく 童話館

親子で読んでほしい本！

中学校～

『動物会議』 エーリヒ・ケストナー/[原作] イェー・レープマン/原案 ヴァルター・トリアー/絵 池田香代子/訳 岩波書店

小学校中学年～

『いろいろへんないろのはじまり』 アーノルド・ローベル/作 まきたまつこ/やく 富山房

『ポリーとはらぺこオオカミ』 キャサリン・ストー/作 掛川恭子/訳 岩波書店

4・5歳～

『ターちゃんどペリカン』 ドン・フリーマン/さく さいおんじさちこ/やく ほるぷ出版

親子で過ごす大切な時間、読書をしてゆつたり楽しんでみてはいかがでしょうか。

鯖江市図書館のおすすめ

インターネット 安全・安心通信

☆インターネットトラブル事例 「無料読み放題」の落とし穴

最近、スマホでたくさんのマンガを読むことができます。しかも「無料読み放題」ようなサイトも多く目にします。つついよく知らないサイトで読んでしまうと、いつの間にか落とし穴にはまってしまうこともあるようです。

下記QRコードより、マンガで事例の紹介をみることが出来ます。



無料マンガの事例



その他の事例

ネット対策5つのポイント

- ⓐ 時間と場所を決めて使う。
- ⓑ 家族や友達とルールを決めよう。
- ⓒ 誤解のない言葉でやりとりしよう。
- ⓓ 人の嫌がることや悪口は書き込まない。
- ⓔ ネットで知り合った人とは会わない。

安全のために、必ずフィルタリングを！

青少年健全育成鯖江市民会議

第3日曜日は「家庭の日 家族ふれあいデー」

県では毎月第3日曜日を「家庭の日」と定め、家族のふれあい時間（家族時間）を増やす運動を推進しています。

お子さん(18歳以下)連れのご家族が特典を受けられる市内の店舗はこちら→



電話相談受付中 相談窓口

子どもの発育や健康の相談	健康づくり課 (52-1138)	月～金曜日 8:30～17:15
児童相談	こどもまんなか課 (53-2224) (53-2269)	月～金曜日 8:30～17:15
子育て相談	子育て支援センターにじいろ (53-3527)	月～金曜日 9:00～16:30

言語聴覚士によることばの相談も対応しています

不安や悩みは一人で抱えこまず、ちょっと気になることや心配なこと等、何でもお話ししましょう◎

子どもの心に届く言葉かけ

子どもが間違ったことやよくないことをしたときのよい叱り方がわからないと悩んでいませんか？子どもがなかなか言うことを聞いてくれないと、ごきまで叱ってよいのか、どう言葉をかければよいのかなど、困ってしまいますよね。

次のような場面で、どんな言葉をかけていますか？どんな言葉をかけたいですか？

なかなか宿題をやり始めないとき



- A 宿題は終わったの？
- B 宿題が早く終わると、楽しく〇〇ができるよ。

ゲームに夢中になっていないとき



- A ゲームばかりしていると、頭がわるくなるよ。
- B 上手だね。次、クリアしたら、一緒に〇〇しようね。

出かける準備が進まないとき



- A 早くしなさい。遅れるよ。
- B 何分あればできるかな？

友だちの悪口を言いだしたとき



- A 悪口はだめだよ。
- B それは、嫌だね。でも、〇〇さん（相手）にも何か理由があるのかもしれないよ。

兄弟げんかをしているとき



- A 2人とも悪いよ。ぐつちもあやまろうね。
- B 2人はどうしたかったのかな？（2人の言い分を聞いてから）どうしたらいいと思う？

右のような場面では、AよりもBの言葉かけの方が、子どもの心に届くように思います。他にもいろいろな言葉のかけ方がありますよね。お互いに気持ちよく過ごすことができるよう、そして子どもが自己肯定感が高まるように言葉をかけられるといいですね。年齢や性格でも違ってくるので、お子さんと相談するのもよいかもしれませんね。

子どもの今の気持ちを認める

「なるほど。」「そう思ったんだね。」

命令ではなく提案

「〇〇はどうか？」

否定ではなく肯定

「〇〇しようね。」

自分で考える、決める

「どうしたらいいかな？」

アドバイスは具体的に

「〇〇はどうか？」

一緒にする

「一緒にやろう。」

できたらほめる

「すごいね。」「さすがだね。」
「よかったよ。」「うれしいな。」



次もがんばろう！

なんだかいい気持ち！

ほめられてうれしいな！

涓滴

「子どもに安心感」を与える

「自身の子育てについて「甘やかし」すぎではと心配する親と、「厳しすぎる」と感じている保護者の両タイプの方がいらっしゃると思います。そんな中、子どもの「安定」を中心にしたアタッチメント教育が注目されています。NHKの朝の番組でも紹介されています。

具体的には「褒める、子どもの行動を言語化する」です。この方法を実践してみたら、「子どものイヤイヤがなくなりました」「中学生のわが子が感情を爆発させることもなくなりました」という声もあり、一般家庭に広がりつつある教育法です。

「命令」「批判」「質問」を減らし、「褒める」「言葉を繰り返す」を増やす。

ネガティブトークを減らし、ポジティブトークを増やすことで、子どもの心を安定させる環境を作ります。例えば「宿題は終わったの」「は、質問の形をした問い詰めでしかありません。」「命令」「質問」「批判」を減らすのです。

もちろん、保護者として、見逃せない場合もありましょう。しかし、安全・命に関わる以外、三回程度注意を繰り返したら、一度スルー（聞き流し）はどうでしょうか。むしろ、子どもの方が、心配になり、親に寄ってくるようになるでしょう。

「見たままを言語化」で子どもを見ている姿勢を伝える

「子どもの現状」をそのまま言語化する会話術です。「宿題をしているね」「トレーニングしているんだな」など、その子が保護者の目の前で行動していることを、そのまま言うことで、子どもは安定してくるということです。

伝わる確率が7割アップ

禁止の言い方は、子どもの行動を批判するだけになります。どうしてほしいのか具体的に言ったほうが耳に残ります。適切な命令は中立的な声で、五秒置いて繰り返すが三回までにします。望ましくない行動には、怒らず無視してやり過します。そして、聞いてくれたら「ありがとう」を伝えます。

最低五分子どもを遊びに「注目」

思い通りにいかないと感情を爆発させる子どもがいます。試してみるとよい方法として、一回五～二十分子どもを自由に遊ばせ、注目するだけの教育です。注目された子どもは、親との直接的なつながりを感じ、やがて、親を引き付けるために、感情を爆発させたりしなくなると言われています。まず、二か月続けてみたらどうでしょう。子どもの変化に注目してみるのも楽しいことです。子どもたちは注目されるだけで、実は落ち着くのです。

※「涓滴」とは「しずく」という意味。しずくも集まれば、やがて大河となることの願いをこめて。